



414
A5533

考課状改正掛并年報取扱假條例

記録用紙



414
A2293



考課狀改正掛并年報取扱假條例

記録頭熊谷武五郎

大正十一年四月
隈侯爵邸寄贈

緒言

茲ニ歐米各國諸般政体之上ニ於テ理賤之途如何ヲ熟察スルニ其施為之方法千差万別運用之事款條縷百端ナリト雖モ要スルニ計出為入ノ外ニ出ルヲナキハ論ヲ待サル所ナリ然リ而モ吾邦ノ如キハ制度慣習全ク歐米諸國ニ異ナル者アルヲ以テ現地ノ實況ニ就テ其方法ヲ明言スルニ至テハ量入制出ヲ以テ理賤之本体トナ

言金
廿、ルヲ得ス而メ量制之事為テ明瞭ニシ財政
ノ基礎ヲ確定スルノ途タルヤ既往ノ成績ヲ以
テ現今ノ計算ニ比較シ以テ將來ノ歲入歲出ヲ
測量シ國家大計ノ由ル所ト國用ノ盈縮スル所
トヲ了知シ以テ之レカ運用ヲ為スニアリ仍テ
今大藏省年報ヲ作為シ歲出入ノ總計國債ノ增
減租稅収獲ノ實況物産輸出入ノ比較等ノ如キ
計算ノ細目ト貿易ノ盛衰銀行ノ狀況金銀銅貨
鑄造紙幣發行ノ全額等ノ如キ財務ノ要款トニ
至ルマテ之レヲ纖悉具詳シ既往現今將來ノ出

入比較ヲナシ其増減損益得失利害ヲ審查明斷
シ以テ大計運用ノ一大要具トナサンナス乃チ
明治元年正月ニ起リ明治八年六月三十日ニ至
ル大藏省中現地施為ノ成績ニ就キ前條ノ款項
一々之レヲ歴記シ月ニ計シ年ニ算シ其出入ノ
比較ヲ明了ニシ之レヲ明治八年七月一日ニ起
ル第一回決算年報書中ニ編入シ以テ將來量制
之目途ヲ設立スルノ權衡トナス抑戊辰革命^{維新}之
時ニ當テヤ兵血未乾燹燼猶燃ルヲ以テ會計之
程式出入之法制其當否ノ如キハ姑ク閣キ尔後

明治五辛未年中ノ更正ヲ以テ稍端緒ニ就クト
雖モ今日ヨリシテ之レヲ回視スレハ程式法制
悉ク允當ナリト云フ可ラス故ニ之レカ月計ヲ
作り之レカ年算ヲナシ之レカ比較ヲナスニ至
ツテハ其難易辨セスシテ知ル可シ然レモ之レ
カ体面ニ關セス唯其實地ニ就キ其計算ヲナス
カ如キハ万不能ノ理ナシ或ハ此ノ粗概ノ出入
ヲ歴記シ濫雜ノ比較ヲナスニ於テハ我政府ノ
不体面ヲ露スニ以タリト云フモノアランモ是
決メ不然女媧補天之荒談猶支那ノ正史ニ筆シ

漢家四百年ノ事業亦三章ノ約法ニ基ヒス米國
現時ノ盛大モ之レヲ百年ノ前ニ回視スレハ英
國逋逃ノ巢窟タルニ過ス夫レ物順序アリ時地
張アリ戊辰革命ノ血ヲ灑カスンハ安ンノ辛未
更正ノ奉アルヲ得ン辛未大概ノ更正ナクンハ
敢テ今日ノ綴法密則ヲ設クルヲ得ン昔日之疎
ハ今日ノ密ヲ致シ今日之良法ハ昔日之概計ニ
基ヒス豈疑ヲ此間ニ容ル可ンヤ仍テ前款縷述
スル所大藏省年報ヲ作為スルノ事務ニ從事セ
ントシ其施為ノ順序ヲ設クル左ノ如シ

考課狀改正掛并年報取扱假條例

第一條

大藏省事務報告書ハ各課長ヨリ各寮頭ニ進呈
シ各寮頭ヨリ卿ニ進呈シ卿ヨリ正院ニ上申ス
ルヲ法トナスヘシ而メ其規則ヲ定メ其模本ヲ
製スルハ博ク法ヲ歐米各國ニ取り參酌折衷ヲ
加フヘシ故ニ先ツ該年報原書ヲ翻譯シ模本ヲ
製スルノ憑準ニ具シ且ツ各寮課局ニ照管シテ
其擔當ノ事務ヲ調査シ以テ該翻譯書ニ照合シ
其體段ハ其條規トヲ確定スルヲ法トナスヘシ

第二條

報告書ヲ作為スルニ當テヤ決算年ヲ確定スルハ最大緊要ノ條件タリ而シテ本省己ニ七月一日ヨリ翌年六月三十日ニ至ルヲ以テ決算年度ト定メリ故ニ尔後之レヲ確守シ此期ヲ愆ルナキヲ要ス而シテ合衆國ノ如キハ各課長ヨリ九月一日ヲ以テ其報告書ヲ其寮頭ニ進呈シ各寮頭ハ十一月一日ヲ以テ卿ニ進呈シ卿ハ十二月月曜日ヲ以テ議院ニ呈スルヲ則トナセリ故ニ皇國ニ於テモ課長ハ九月一日ヲ以テ寮頭ニ

進呈シ寮頭ハ十一月一日ヲ以テ卿ニ進呈シ卿ハ十二月十日ヲ以テ正院ニ上申スルヲ則トナスヘシ

第三條

前條既ニ論スル如ク事務報告ヲナスハ課ヨリ寮ニ呈シ寮ヨリ省ニ呈スヘキニヨリ先ツ課長ヲシテ其課擔保ノ事務ヲ報告セシムヘシ然レ氏改正ノ後ニ非サレハ此例ニ照準シ難キヲ以テ改正中模本ヲ作為スルノ間ハ當掛ノ負ヲシテ各課長ニ詢リ其事務ヲ調査セシムヘシ之レ

カ為メ豫メ卿ヨリ此事ヲ各寮ニ達旨センヲ
要ス當掛ノ員各課ノ事務ヲ悉ク調査シ了リ中
ニ就テ各寮頭ノ報告書模本ヲ作為シ以テ各寮
ヨリ卿ニ進呈スヘキ報告書ノ軌範トナシ年報
翻譯書ト共ニ之レヲ各寮ニ送付スルヲ法トナ
スヘシ

第四條

當掛ノ員ヲシテ各課長ニ議シ其擔任ノ事務ヲ
調査セシムルノ際須ラク精細詳悉シ苟クモ其
寮ノ事務ニ屬スルモノハ至小至微ノ件ト雖モ

遺漏アラサラシメンヲ要ス然レモ計數等ノ
事ニ至テハ決算ノ期限ニ至ラサレハ全備スル
ハサルニヨリ員額等ハ録載セス惟其條件而已
ヲ臚列スヘシ要スルニ惟之レヲ以テ報告書ノ
模型ニ具スルヲ主トスレハナリ

第五條

報告書模本ヲ制定スルノ際卿及ヒ寮頭各自擔
當セル事務ノ狀況并將來之レヲ改良スルノ方
法等ヲ辯論陳列スルノ模型ヲ製スルニ當テ假
ニ銀行國債租稅紙幣金穀貿易等ノ如キ條件ヲ

設ケ以テ論辨ヲ加フヘシ但シ但シ言但シ金但シ實但シ報但シ告但シ書但シ中但シ卿但シ及但シヒ但シノ但シ論但シ辨但シヲ但シ掲但シ載但シス但シル
ノ順序ハ下
條ニ明辨ス

第六條

各寮其歎告書ヲ作為スルノ順序左ノ如シ

第一次

頭ヨリ大藏卿ニ稟白スルノ文ヲ具ス

第二次

其寮收入支出ノ總額計表ノ種類番号等ヲ
歴記ス

其寮收入支出ノ金額ニ就キ節目ヲ略載シ

テ累年ノ比較及ヒ本年中每一期每一月等
ノ計數ヲ概列ス

第三次

其寮擔保セル事務ノ情實ト之レヲ調理シ
之レヲ改善スルノ方法等ヲ具陳ス之レヲ
ナスノ際既往現今將來ノ三項ニ分テ既往
數年ノ間ハ何等ノ處分ヲ以テ按排整頓シ
現今ハ何等ノ方法ヲ以テ登革矯正シ將來
ハ何等ノ策略ヲ以テ改良大成スヘキ等ノ
事ヲ論辨シ務メテ其區域ト比較トヲ明晰

ニシ苟クモ其案ノ法規ニ関スルモノハ利害得失ヲ歴論シ毫モ漏スルナシ次ニ案中分課ノ方法官吏ノ員數位次増減及ヒ其職ヲ奉スルノ景況ヲ概言ス

第四次

第二次ニ於テ既ニ概言約論スルモノ、細目ヲ此ニ詳悉シ以テ計表ノ体裁トナシ至小至微ノ件ト雖モ遺脱セシメス而メ既往現今出入ノ計理ヲ歴記シ将来ノ豫算ヲ具列シ以テ毎一年ノ比較ヲナシ尚又毎半年

每一季每一月ニ分チ依テ累年ノ比較ヲ明
詳ニシ以テ事務沿革ノ成績ヲシテ秩然タ
ラシム

右ノ順序ニ據リ其報告書ヲ作為シ正副二本ヲ
製シ以テ卿ニ進呈ス卿乃チ其一ヲ左右ニ留メ
其一ヲ以テ當掛ニ付シテ本省年報書ヲ作為ス
ルノ資材ト為サシムヘシ
但シ右ハ惟其大綱ヲ掲クルノミ故ニ之レヲ
メ一目瞭然タラシメンカ為メ令假リニ租稅
ノ一察ニ就キ其出入計算ヲ舉ケ以テ別冊ト

ナシ其概略ノ例案ヲ副具ス其詳規密則ノ如キハ模本制定ノ日ヲ待テ明辨スヘシ

第七條

本省ノ報告書ヲ作為スルノ順序左ノ如シ

第一次

卿ヨリ正院ニ上申スルノ文ヲ具ス

第二次

本年ノ歳出入ヲ通計シ将来ノ豫算ヲ具列

ス

第三次

省中事務ノ景状ト之レヲ辨理シ之レヲ改良シ以テ便益ヲ生スルノ策略等卿ノ議論ヲ陳述ス其序次左ノ如シ

本年収入支出ノ比較ヲナシ其間差等ノ生スルアラハ改良シ以テ其宜ヲ得セシムルノ方法ヲ議論ス
公債ノ概計及ヒ歳中償還セル全額ヲ掲ケ以テ将来之ヲ消却スルノ方法ト利子ノ格ヲ減少スルノ方略等ヲ陳述ス
租稅収獲ノ實況其法則宜キヲ得ルヤ否

之ヲ賦スル公平ナルヤ否改正ヲ要スル
條件ノ有無等脚ノ意見ヲ明辨ス
歳出入ニ關涉スルノ禍災ヲ縷條ス
貿易ノ状況ト輸出輸入ノ比較ヲ掲載シ
貿易ヲ盛昌スルノ方ト國産ヲ增益スル
ノ法トヲ辨論ス

銀行ノ情狀ト之ヲ調理スルノ方法トヲ
陳述ス

省内諸般法令ノ良否官吏ノ負數ト談員
事務ヲ擔保スルノ情實等苟クモ本省ニ

關涉スル所ノ條件ヲ掲ケテ漏ス所ナキ
ヲ要ス

第四次

計表ノ體裁ヲ以テ既往數年間出入計算ノ
節目ヲ詳細歴記シ本年ノ歳出如何歳入如
何ヲ具列シ後數年間ノ概計豫算ヲ審査詳
掲シ且談年間ノ每半年每一季每一月ノ出
入計理ヲ細録シ以テ計算ノ比較ヲ明瞭ニ
シ國家大計ノ運為ニ便ナラシム

第五次

前次概算論述セルモノ、節目ヲ示サンカ
為ノ各寮課局ヨリ進呈スル所ノ報告書ヲ
取り要ヲ摘ミ煩ヲ省キ以テ此ニ掲載スル
ヲ則トス然レモ談書中事務ノ景状ヲ概言
シ将来改良ヲ要スルノ件ト之ヲ登革スル
ノ方法ヲ陳述スルモノハ片言隻語モ添削
塗抹セサルヲ法トス而シテ各寮課局ノ報告
書ヲ掲載スル序次左ノ如シ

理財課

文書課

用度課

蕃地事務掛

條約改正掛

度量衡改正掛

検査寮改正掛

造幣寮

租税寮

紙幣寮

出納寮

統計寮

検査寮

國債寮

記録寮

其他之ニ準ス

但シ頭初ニ本省附属ノ課局ヲ掲ケ次ニ臨時掛ヲ置キ然ル後順序ヲ追ヒ各寮ヲ掲載スルヲ定則トナスヘシ

右報告書ヲ編成シ了リ之ヲ正院ニ上申シ其許可ヲ得テ之ヲ刊刷シ然ル後勅任以上及ヒ本省大少丞ト各寮頭トニ頒布スヘシ夫ノ書肆ニ下シテ之ヲ販賣スルカ如キハ時ノ便宜ニ從フヘシ

以上掲録スル所ハ其肯綮ヲ條悉スルニ足ラサルヲ以テ別ニ草本ヲ案定シ姑ラク諛書ノ大体ヲ表スルノ具トナサントス若シ夫軌範詳確ハ則テ模本制定ノ日ヲ期ス

第八條

報告書中既往現今将来ノ歳入出及ヒ國債貿易租税等ヲ比較スルノ事ハ最重緊要ノ件タリ故ニ豫メ明治元年正月ヨリ明治八年六月三十日ニ至ル歳出入ノ計算ヲ精査シ以テ毎一年毎半年每一季每一月ニ決算レ而メ之レヲ将来御ノ

報告書中ニ掲載シ其沿革ヲ明瞭ニシ以テ将来ノ豫算概計ヲ立ツルノ具ニ供セシムヲ要ス

第九條

右ニ論スル所将来ノ豫算ヲ立ツルノ事ハ卿ノ報告書中ニ限ルヘシ

第十條

前條陳述スル所事務ノ擔當ヲ分テ第一第二ノ兩部トナシ以テ各自擔任ノ事務ヲ調理セシムヘシ其不課左ノ如シ

第一部

報告原書其他考課狀改正事務ニ緊要ナル横文ヲ翻譯シ以テ參考ニ供スルヲ其職トス

第二部

全國ノ正租雜稅等總歲入ノ種類及ヒ内國費用外國交際費用内外國債償却等總歲出ノ條件各種紙幣金銀銅貨鑄造其他檢査統計等各寮主任ノ事務ヲ類別シ其關係ノ輕重有無ヲ酌量シテ豫メ其科目ヲ設立シ某類ハ某寮ニ屬シ某事件ハ某寮ヨリ報告ス

言金審
ヘキ等ヲ精細ニ調査シ以テ報告書模本ヲ
製スルノ資具トナシ而シテ報告書譯文ニ照
準シ以テ現今本省及ヒ各寮局課施行スル
所ノ事務ニ照會シ逐次取捨折衷ヲ加ヘ報
告文ノ体裁ヲ議定シ諸計表ノ模本ヲ整備
スルヲ其責任トス

第十一條

各寮局課其報告書ヲ作為スルノ際先ツ其草按
ヲ當掛リニ送付シ定則ニ適フヤ否ヲ照會スヘ
シ當掛之レヲ受テ精細調査シ若シ法ノ如クナ

ラサル者アラハ則校正シ以テ其主任ニ還付ス
主任之レニ從テ改正シ然ル後正副二本ヲ卿ニ
進呈スヘシ

第十二條

卿ノ報告書ヲ作為スルノ際事務ノ景況ト卿ノ
意見ヲ陳述スルニ當リ之レニ掲載論述セント
欲スルノ件々ハ豫シメ卿ニ請ヒ其筆記或ハ口
授ヲ受ケ之レニ依テ草按ヲ起シ以テ之レヲ卿
ニ呈シテ閱覽ヲ請ヒ其可否スル所ニ從ヒ之レ
ヲ改正スヘシ

第十三條

卿ノ報告書中ニハ細目ヲ指示スルノ計表ヲ省
略ス故ニ各寮進呈スル所ノ報告書ニ就キ折衷
取捨ヲ加ヘ歳出入ノ多寡國債ノ増減貿易ノ盛
衰租税ノ實況等其詳細ヲ示スノ具トナスヘシ
悉ク之レヲ掲載セシ後テ再ヒ卿ノ査閲ヲ請ヒ
以テ正院ニ上申スヘシ

前條具論セル次算年度及ヒ報告書上申并ニ

概計預算等ノ期限ヲシテ明晰ナラシメシカ
為メ茲ニ左ノ表ヲ掲ク

収納期限之表

八月	七月	八年
十月	十月	八年
一月	二月	九年
四月	五月	九年
六月	九月	九年

七月	八月	九年
十月	十一月	九年
一月	二月	十年
四月	五月	十年
六月	九月	十年

七月	八月	十年
十月	十一月	十年
一月	二月	十一年
四月	五月	十一年
六月	九月	十一年

概計豫算期限之表

八月	七月	八年
十月	十月	八年
一月	二月	九年
四月	五月	九年
七月	八月	九年
九月	十二月	九年

九月	十月	十年
十一月	十二月	十年
一月	二月	十一年
四月	五月	十一年
六月	九月	十一年

七月	八月	十年
十月	十一月	十年
一月	二月	十一年
四月	五月	十一年
六月	九月	十一年

此一季ヲ前決算年収納期トス
 此ノ上申ヲナス時概算假算ヲ付スル左ノ圖ノ如シ

之レハ第二決算年初一季ノ概算
 以下残り三季ノ假算及ヒ将来第三決算年歳入歳
 出ノ見込計算

決算年及報告書上由期限表

第一決算年	第二決算年	第三決算年	第四決算年	決算年期限	課長進呈期限	寮頭上申期限	御ヨリ三階上申スル期限
明治八年七月一日ヨリ同九年六月三十日ニ至ル	明治九年七月一日ヨリ同十年六月三十日ニ至ル	明治十年七月一日ヨリ同十一年六月三十日ニ至ル	明治十一年七月一日ヨリ同十二年六月三十日ニ至ル	明治九年九月一日	明治十年九月一日	明治十年十月一日	明治九年十月十日
明治九年七月一日ヨリ同十年六月三十日ニ至ル	明治十年七月一日ヨリ同十一年六月三十日ニ至ル	明治十一年七月一日ヨリ同十二年六月三十日ニ至ル	明治十二年七月一日ヨリ同十三年六月三十日ニ至ル	明治九年九月一日	明治十年九月一日	明治十年十月一日	明治九年十月十日
明治十年七月一日ヨリ同十一年六月三十日ニ至ル	明治十一年七月一日ヨリ同十二年六月三十日ニ至ル	明治十二年七月一日ヨリ同十三年六月三十日ニ至ル	明治十三年七月一日ヨリ同十四年六月三十日ニ至ル	明治九年九月一日	明治十年九月一日	明治十年十月一日	明治九年十月十日
明治十一年七月一日ヨリ同十二年六月三十日ニ至ル	明治十二年七月一日ヨリ同十三年六月三十日ニ至ル	明治十三年七月一日ヨリ同十四年六月三十日ニ至ル	明治十四年七月一日ヨリ同十五年六月三十日ニ至ル	明治九年九月一日	明治十年九月一日	明治十年十月一日	明治九年十月十日

附言

前叙既ニ論スルカ如ク年報書編成ノ奉タル皇國ニ於テハ目下淑メテ着手施為スル所ナルニヨリ或ハ法ヲ米國ニ摺採シ或ハ例ヲ英佛ニ模倣シ以テ皇國目今ノ制度ニ照視酌量シ然ル後其体裁規則ヲ制定セサルヲ得ス故ニ今假リニ條例ヲ設ケ着手ノ門戸トナサント欲スト雖モ尚實際經驗増補改正ヲ要スル者アラン但シ之レヲ増補改正スルニ至テハ更ニ高判ヲ仰クヘシ請フ速ニ之レヲ裁セヨ

